

目的 肘部の着じわは、袖の形態のみでなく身頃の形態によっても左右されると考えられるが、本研究ではアームホールの形状が肘部着じわに及ぼす影響を検討し、着じわの少ないパターンを探る。さらに肘部の着じわを評価する上での重要な因子を抽出して、気になる着じわの減少を計る。

方法 実験服は、アームホールの形状を「Chest line levelの胸・背幅」、「袖ぐりの深さ」の2要因、3水準から9着作成した。しわつけは、普通体型の女子学生3名が肘をつき本を読む姿勢で行った。判定は、身頃の一部を含む実験服肘部の写真を用い、17形容詞対による7段階のSD評価と順位法で行った。解析は分散分析、因子分析、順位グラフ解析法によった。

結果 1. 因子分析の結果、累積寄与率が67%になる2因子を得た。第一因子はしわの量を、第二因子は、しわの鮮烈さを表すものと考えられた。

2. 分散分析の結果、本実験でアームホールの形状を決定した2要因は肘部の着じわに影響を及ぼすことがわかった。

3. 順位グラフと分散分析の結果より、アームホールは大きい方が着じわの発生を抑えることがわかった。さらに、「袖ぐりの深さ」を深くしてアームホールを大きくするより、「Chest line levelの胸・背幅」を減じてアームホールを拡大するほうがしわの発生は少なくなることもわかった。